

平成28年度 学校評価アンケート結果の分析と改善策について

今年度の学校評価に多数のご協力をいただき感謝申し上げます。以下のとおり集計結果をご報告いたします。
 利府高をさらに良い学校へ、また活気溢れる学校にしていこうという生徒・保護者の皆様の思いや期待に添えるよう取り組んで参ります。
 今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。
 なお、集計結果（実現度調査）の詳細については、本校ホームページ[http://rifu-h.myswan.ne.jp/evaluated.html]をご覧ください。

実施日：平成28年11月1日（火）
 回収日：平成28年11月14日（月）
 対象：生徒（回答数824名 回答率99.4%）、保護者（回答数813名 回答率98.1%）、教職員（61名）
 「よく出来ている」、「大体出来ている」、「あまり出来ていない」、「出来ていない」の4段階による評価

実現度調査の分析と改善策【全学年共通】

アイコン表記のルール 80%以上 60~79% 40~59% 40%未満 10%以上 0~9% 0%未満

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	生徒 77%	-1%	肯定的な回答である「よく出来ている」と「大体出来ている」を合わせた割合が、教職員が86.9%（昨年度89.6%）、保護者が80.7%（昨年度79.8%）、生徒が77.2%（昨年度77.8%）となり、教職員・保護者・生徒ともほぼ横ばいである。生徒の実態に応じた「わかる授業」への学校全体としての取り組みやアクティブラーニングの理解が教職員に浸透しつつあると分析できる。	例年と同様に、基礎学力を身に付ける段階である1年次では、学習上でつまずきを防ぐ観点から国語・数学・英語の3教科で習熟度別または少人数クラスでの授業を行っている。授業以外でも、査学前学習会、個人への添削指導、担任による複数回の面談の実施等、個に対応した指導を行っている。また、アクティブラーニングを取り入れた授業及び観点別評価についても研究を深めていく。
	保護者 81%	1%		
	教職員 87%	-3%		
② 挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている。	生徒 95%	-1%	肯定的な回答の割合が、生徒95.4%、保護者96.0%、教職員100%という結果であり、基本的な生活習慣の確立に関する指導についてはほぼ徹底できている。特に挨拶については、入学当初からあらゆる場面を通じて挨拶をする雰囲気が校内全体に浸透してきた成果であると考えられる。しかし一方で、生徒側にも教員側にも挨拶が徹底されていない面や校外でのマナーの悪化に対する苦情なども少なからずあり、校内外を問わず基本的な姿勢を育むための啓発が必要である。	今後も引き続き、自然に挨拶を交わすことのできる雰囲気を全体を通じて形成していくことが重要である。その中で生徒間・教職員間の温度差をなくし、基本的な生活習慣に関する1人1人の意識の高揚に繋げていきたいと考える。また、マナーの確立に関してはHRや集会、部活動等を通じて継続的に啓発活動を行うとともに地域のボランティア活動等の機会を増やし、外部や社会全体に目を向けさせることでより広い視野を育む指導を模索していきたい。
	保護者 96%	0%		
	教職員 100%	1%		
③ 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	生徒 86%	-2%	肯定的な意見が多いが、「よく出来ている」と答えている教職員が13.1%に対して、生徒は30.5%と倍以上もいる。教職員と生徒が求めるものの質や量が違っていることがあるのか考えていかなければならない。	昨年度とほぼ同様の意見になってしまいが、肯定的な意見が多いのは全教職員が生徒に対して個に応じたきめ細かい指導をしていることが要因であると考えられる。しかし、生徒自身は受け身的な生徒が多いので、生徒自らが主体的に進路希望を決定する力を育むように努力していきたい。
	保護者 81%	-1%		
	教職員 79%	-3%		
④ 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている。	生徒 81%	3%	大多数が肯定的に体制ができているという認識であるが、教員と生徒、保護者との間に隔りがある。それは、教員やSC側は相談を受け入れる体制であるが、相談することに抵抗感を持っていると考えられる。また、保護者は相談日時がよくわからないということも考えられる。生徒の様子の変化を観察し、相談のタイミングを的確に捉えて行く必要がある。	保健だよりやカウンセリング通信を通して、相談活動を身近に感じるように広報活動を行う必要がある。相談件数及び相談人数は少ない方が望ましいが、悩みを持っていても言い出せないケースが多く、潜在的に相談を希望する生徒や保護者もいると思うので、普段から相談しやすい体制であるよう心がけたい。
	保護者 79%	-1%		
	教職員 95%	-1%		
⑤ 部活動は活発に行われている。	生徒 98%	0%	肯定的な回答の割合が総計で97.8%と非常に高い数値を得られている。対象差・認識差ともに少なく、前年度同様高い水準である。今年度は、運動部・文化部ともに例年よりも数多くの実績を残しており、本校の特色である部活動がより活発に行われている成果であると考えられる。	継続して生徒が主体的かつ積極的に部活動に取り組める環境づくりに努める。部活動は本校の大きな特色であり、周囲からの期待度も大きく、多方面での活躍の機会も多いため、自覚と責任を育成する指導が必要である。一方で、学習と部活動との両立や学習時間の確保について部活動のあり方を検討する余地がある。
	保護者 97%	0%		
	教職員 100%	0%		
⑥ 生徒会活動は活発に行われている。	生徒 85%	2%	肯定的な回答の割合が総計で88.2%という数値であり、前年度よりも1.1%と若干ではあるが向上した。この項目に関しては、ここ2年程で大きく肯定的な数値へと変化してきており、生徒会執行部や各種委員会において積極的に活動の機会を増やしてきた成果であると考えられる。しかし一方で、外部への積極的な発信や生徒による主体的な活動には消極的な面も見られるため、対策と改善が必要である。	生徒会行事や利府高祭の企画・運営、十符っこプラザシップにおける地域的リーダーとしての役割を生徒会執行部が積極的に務め、活動に取り組めるようになってきた。今後は学校活性化のために、生徒が主体的に課題解決し、行動できるような組織作りにもさらに努めるとともに、本校の活動を外部に発信できる機会や地域の活動に積極的に参加する機会を増やし、地域の信頼を得られるよう努めていきたい。
	保護者 91%	-1%		
	教職員 89%	8%		
⑦ 有意義な学校行事がある。	生徒 82%	0%	肯定的な回答の割合が、生徒82.4%、保護者90.9%、教職員100%という結果であり、生徒と教職員の認識差が17.6%と昨年度同様大きな開きが出ている。毎年反省を踏まえながら実施してきてはいるが、なかなかこの開きが縮小されていない。時間や天候等の制約を考慮しながら、内容をできる限り見直ししていく必要がある。	新たな行事を増やしたり、行事の日数を延ばすことは現状では難しい。よって、限られた時間と予算の中で、特別活動である行事内容の充実を図ることが必要である。特に大きな行事である利府高祭と体育大会等において、実行委員を筆頭に意見を集約し、生徒が主体的に課題解決に取り組み、内容の充実を図る能力の育成に努めたい。そのため、時間的な余裕をもって計画的に取り組めるような調整や春に実施するリーダー研修会の内容の見直しを図り、早い時期から主体性を促す活動を行っていく等の改善を検討する。
	保護者 91%	0%		
	教職員 100%	0%		
⑧ 地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。	生徒 84%	1%	肯定的な回答である「よくできている」と「大体できている」を合わせた割合については、保護者91%・生徒84%（ともに2%・1%増）とほぼ昨年度並みではあるが、良好な割合が大半を占めた。地域に根ざした特色として「スポーツ交流」や「十符っこプラザシップ」などははじめとする行事や学校生活などの活動が評価されたものと考えられる。	「梨の花粉交配」や「スポーツ交流」、「十符っこプラザシップ」などが本校で実施している地域との関わりがある主な学校行事であるが、残念ながらすべてが関係するものではなく、該当生徒だけが関わる行事であった。しかし、今年度はリオオリンピックの閉会式で流す、日本のPR動画の撮影に全校生徒が参加する機会に恵まれた。町内にある学校と協力し撮影を行ったが、本校生徒はその中でリーダーシップを発揮するなど大きな貢献を見た。地域との関わりは、生徒にとって教育効果が高いものであり、今後も模索していきたい。
	保護者 91%	2%		
	教職員 90%	2%		
⑨ 災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。	生徒 80%	-2%	「よく出来ている」と「大体出来ている」を合わせた数値は、生徒80%、保護者74.4%、教職員88.5%になっている。「あまり出ていない」と評価する生徒・保護者が約2割になっている。地震や台風の影響を受けることが多くなっており、災害時の避難や連絡について周知されていない面があると考えられる。メール配信システム登録や災害時の対応についてさらに検討し、改善していく必要がある。	災害時の連絡についてはメール配信システムを活用しているため、登録数が増加していくように案内する。また、学校のホームページに緊急掲示板があることを知らせておく。防災マニュアルは作成しているが、災害時の登下校について、予め保護者・生徒に周知しておく必要がある。災害時における生徒の学校待機や保護者への引き渡しについては調査しているが、活用について今後も検討していきたい。
	保護者 74%	-5%		
	教職員 89%	-5%		
⑩ 学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている。	生徒 90%	2%	肯定的意見である「よく出来ている」と「大体出来ている」を合わせた割合が、保護者が84%・生徒90%と多い割合を占める結果となった。この結果は、昨年度と比較すると生徒は2%・保護者は1%アップであった。様々な学校からの情報が、保護者や生徒に対し概ね伝わっているものと評価できる。	毎月発行の「燃えろ利府高」では、生徒の学校生活の様子や部活動の成績、翌月の予定などを掲載し、HPにアップしている。迅速性や確実な伝達が必要とされる「お知らせ」については、一斉メール配信システムにて情報伝達を行っている。また、顕著な生徒の実績については校門前の掲示板に横断幕を作成し、タイムリーな掲示に心がけた。今後もよりよいPR活動、情報の発信に努めたい。
	保護者 84%	1%		
	教職員 87%	-4%		
⑪ 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。	生徒 92%	1%	「よく出来ている」と「大体出来ている」を合わせて92.1%が肯定的意見と受け取れる。昨年度から0.5ポイント低下したが、90%を超えていることは、施設・設備の維持管理について一定の評価を受けていると考えられる。創立当時最先端の施設設備でも、年数経過による施設設備の劣化は否めず、今後の改修等について検討していく必要がある。	施設整備5カ年計画で優先的に整備していくものを検討し計画的に施設設備の改修を進めていきたい。 また、40周年記念事業での整備項目を検討していく。
	保護者 93%	0%		
	教職員 89%	4%		
⑫ 日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	生徒 74%	1%	肯定的な回答の割合が、生徒73.7%、保護者67.9%、教職員86.9%という結果であり、生徒と保護者の肯定的回答の割合が全体的に低くなっている。また、生徒と教職員との認識差が13.2%、保護者と教職員との認識差が19%と大きな開きが出ており、本校のいじめの早期発見への取り組みがあまり認識されておらず、浸透していないことが伺える。昨年度の反省を踏まえ、HP上における「利府高校いじめ防止基本方針」の掲載やPTA総会・予備登校時、三者面談等での保護者への周知、集会やHR等での生徒への啓発に努めてきたが、これだけではまだ不十分であると考えられる。さらに踏み込んだ改善と対策が必要である。	いじめの未然防止・早期発見・早期解決への取り組みは、学校生活の指導上必要不可欠なことであるという認識を教職員全体で共有し、教職員全員が多面的に生徒の様子や状況を把握するよう徹底する。さらに、生徒指導部では学校生活調査（いじめアンケート）を実施しているが、この回数を増やすなどとして、より細やかに生徒の状況把握に努める。また、追跡調査の徹底と情報共有の徹底を図り、早期発見に取り組んでいきたい。
	保護者 68%	6%		
	教職員 87%	-1%		
⑬ 学校生活は充実している。	生徒 80%	-1%	肯定的な意見が生徒80% 保護者89% 教員95%といずれも高い割合であった。日々、目標をもって学校生活を充実していることが伺える。ただ、教員側と生徒側とで10%近くの認識のずれがあり、その分析をすることでさらに充実した高校生活を送ることができるものと考えられる。	全体的に良好であると回答している割合が8割以上であるが、生徒の認識が、保護者、教員より低くなっているため、学校生活調査で現状分析を行い、生徒の考え、ニーズを把握する必要があると考える。生徒の学校生活への意欲、生活の向上、将来の目標を持つことで学校生活が充実するように支援する。
	保護者 89%	-1%		
	教職員 95%	-4%		

実施度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」		前年度比	分析	改善策
	生徒	保護者			
⑭ 家庭学習を含めた自主・自立的な学習態度を育成している。	生徒	74%	↑1%	肯定的な回答である「よくできている」と「大体できている」を合わせた割合について、保護者が71.5%（昨年度72.3%）、生徒73.7%（昨年度73.4%）とほぼ昨年度並みであるのに対して、教職員が36.1%（昨年度46.3%）と11.2%減少した。教職員の、生徒は課題がなければ自主的に学習しないという認識が強いようだ。また、例年と同様に生徒・保護者と教職員の差は依然として大きいものがある。生徒・保護者は学習時間など量的な観点から、教職員は提出された課題の質的な観点で判断している結果とも言える。依然、「自主・自立的な学習態度」が満足できる段階には到達していないと分析できる。	「予習→授業→復習」という学習サイクルを体験させるために各教科で実施している学習オリエンテーションは生徒から高い評価を得ている。しかし、それを実践している生徒は多いとは言えない。宿題や課題、小テストなどを授業と連動した形にし、日々の学習習慣を確立させなければならない。また、宿題や課題も、量的なものよりも、考える場面を必要とする質的に充実した内容となるようにさらなる工夫をしていく必要がある。
	保護者	71%	↓-1%		
	教職員	36%	↓-10%		
⑮ 進学先の学業に対応できる学力を養成している。	生徒	74%	↑4%	肯定的な回答である「よくできている」と「大体できている」を合わせた割合について、保護者が66.3%（昨年度60.8%）、生徒74.2%（昨年度69.6%）であるのに対して、教職員が42.6%（昨年度30.0%）と昨年に引き続き全質問中で最も生徒・保護者と教職員の差が大きかった。この意識のずれは、教員が進学先で必要と考えているレベルの学力と生徒の実際の学力および学習への取り組み状況に大きな差があることを示している。また、推薦・AO入試利用者が増加し、一般受験をする生徒が少ないことから切羽詰まって学習している生徒をあまり見かけていないことも影響している。	授業では基礎基本を徹底した上で、生徒に主体的に学ぶ姿勢を身につけさせたい。また、課題や小テストなどをうまく組み合わせて学習内容の定着を目指し、さらには成績上位者の意欲を引き出すような発展的な内容についても積極的に紹介したい。 進路指導部と連携、協力を図り、1・2年次からの啓蒙的な進路指導を実施したい。また、教職員の研修会等を利用しながら、新しい入試制度を念頭に置いた学習指導の在り方を研究する必要もある。
	保護者	66%	↑5%		
	教職員	43%	↑13%		
⑯ 3年間を見通した計画的・継続的な進路指導体制が確立されている。	生徒	86%	↑3%	肯定的な回答である「よく出来ている」と「大体出来ている」を合わせた割合については、教職員が73.8%（前年73.2%）、保護者が78.1%（前年78.4%）、生徒が85.6%（前年83.3%）となっている。総合学習で行っていることの意味・意義について情報発信を通して浸透してきているのかもしれない。	さらなる3年間を見通した進路行事の精選と内容の工夫・改善に努力する必要がある。その結果、生徒が自主的に進路選択ができるような力を身に付けさせたい。教員が目的意識を共有できるような3年間のシラバスを作成し、身に付ける力を意識できるようにする。
	保護者	78%	↑0%		
	教職員	74%	↑1%		
⑰ 「総合的な学習の時間」における進路指導が充実している。	生徒	87%	↑1%	肯定的な回答である「よく出来ている」と「大体出来ている」を合わせた数値については、教職員が78.7%（前年77.6%）、保護者が79.4%（前年77.7%）、生徒が87.4%（前年86.2%）となっている。3年間を通して、「どのような力を身に付けさせたいのか」の情報発信が少なかつた点が反省である。	多くは総合学習の各行事の意義を理解し、積極的に取り組んでいる様子が見える。生徒・保護者・教職員に対しては、総合学習で行っている行事の内容や意義を十分理解していただくため、さらなる保護者や地域への情報の発信を怠らないように注意していきたい。
	保護者	79%	↑1%		
	教職員	79%	↑1%		
⑱ 個に応じた適切な進路指導が行われている。	生徒	80%	↑0%	肯定的な回答である「よく出来ている」と「大体出来ている」を合わせた数値については、教職員が75.4%（前年77.6%）、保護者が73.3%（前年73.5%）、生徒が79.6%（前年80.5%）となっている。いずれも数値は微減した。3年次では進路に合わせて個別指導をしているが、1・2年次では個別な指導があまり出ていないこともある。	1・2年次では全体指導の中で、自分の適性や目的意識から自ら進路を考えて欲しいと考えている。その中からできてきた個別な悩みなどには相談できる体制がまだ出ていないのかもしれない。三者面談や進路希望調査の際に保護者から出てきた疑問や質問については、早く答える体制を整えたい。また3年次になり、各自の進路希望に応じた指導については、更なる充実をさせていきたい。
	保護者	73%	↑0%		
	教職員	75%	↓-3%		
⑲ 全校清掃、校内外の美化活動を実践している。	生徒	84%	↑1%	肯定的な意見が保護者89.5%、教員95.1%といずれも高い割合となっており、校内美化・清掃について一定の評価をいただいた。しかし、生徒の肯定的な意見が83.6%でありやや下がっている。生徒との認識の差を埋められるように今後工夫するとともに評価の向上に努める必要がある。	全体で肯定的意見が多かったことは喜ばしい。先生方にはご苦労をおかけしているが、環境美化は日常清掃の徹底が重要である。監督の先生方の指導と生徒の頑張りも今後お願いしたい。一方校舎内外の老朽化に伴い、掃除をしてもきれいにいかないという声もある。予算等の問題もあるがトイレ清掃や校舎内のトイレ以外の箇所にも業者による清掃をしていただいたり、場合によっては校舎の改築や修繕も必要になってくるのではないだろうか。
	保護者	90%	↑0%		
	教職員	95%	↑2%		
⑳ 「人の集まる図書館づくり」に努め、学習センターとしての機能が充実している。	生徒	65%	↑3%	肯定的な回答である「よくできている」と「大体できている」を合わせた数値は生徒65%（昨年度62%）、保護者70%（昨年度71%）、教員82%（75%）であった。先生方は視聴覚や図書室などの利用により、図書の内容を理解していただいていると思われるが、教員側と生徒側とで15%近くの認識のずれがあり、生徒の興味関心が向けられていないと考えられる。	全体的には昨年度より若干向上した部分もあることから、学習センターとして学習に役立つ資料の収集や、学習環境の整備、視聴覚機器等の整備にさらに努めていきたい。生徒の利用は授業が中心という状況もあるので、日常生活の中で、読書の興味関心が向上するような働きかけが必要であると思われる。また、受験や日常の学習に向けての環境整備についても、開館延長なども継続していきたい。
	保護者	70%	↓-1%		
	教職員	82%	↑7%		
㉑ 衛生管理を徹底し、生徒の健康の保持増進に努めている。	生徒	84%	↑0%	肯定的意見が生徒84%、保護者85%、教職員87%とおおむね取り組まれている。生徒の健康の保持増進は先生方の日頃のご指導によるところが大きく、各クラスや部活動で、きめ細やかに配慮されているものと考えられる。	保健だより等で定期的に情報発信はしているが、掲示物の充実、行事のお知らせ等にメール配信システムを活用する等、積極的に情報や取り組みを発信するよう努めたい。感染症については、今年度おこなった授業打ち切りなどの早急な対応で感染の広がりを抑えられるように努めた。また、石鹸や手指消毒液の補充、マスクの提供なども継続させていきたい。
	保護者	85%	↓-2%		
	教職員	87%	↓-1%		
㉒ P T A や同窓会活動の充実 に努めている。	生徒	—	—	質問項目について、「よく出来ている」と「大体出来ている」の割合は高く、保護者は84%、教職員は93%になっている。P T A や同窓会活動について、行事案内や広報活動を行っていることがある程度評価されている。一方で、「あまり出ていない」「出ていない」と評価する数字が保護者で約16%に達するのは、P T A 行事の案内が周知されていないことや行事への関心が低く、参加する一般会員数が少ないことが原因ではないかと分析する。	P T A 行事が充実するように、広報や案内を継続していく。特にP T A 総会の出席者が増加するように、各分掌と連携しながら内容の充実を図る。環境整備活動について、時期や内容を検討する。P T A 本部の活動だけではなく、年次のP T A 活動においても保護者の理解を得ながら、さらに活動が活性化するように取り組んでいきたい。
	保護者	84%	↑0%		
	教職員	93%	↑8%		

実施度調査の分析と改善策【1年次】

実施度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」		前年度比	分析	改善策
	生徒	保護者			
① 体験学習（オープンキャンパス参加）をとおして、学問研究の場に直接触れることにより、大学で学ぶ意義について学習し、進路に対する視野を広げる指導が行われている。	生徒	86%	↑1%	肯定的意見の割合が生徒86.3%、保護者82.5%ととも高かった。体験学習は、普通科は東北大学のオープンキャンパス参加、スポーツ科は仙台大学への学校訪問という形で行った。事前指導では、大学で学べる学問について調べ、事後指導では、グループごとにまとめ、発表し、体験学習の成果の共有を図った。アンケート結果からは、多くの生徒にとって、大学で学ぶ意義を考えるきっかけになったと感じる。	圧倒的に肯定的意見が多い中、否定的意見が生徒12.9%、保護者17.5%あった。大学への進学を希望していない生徒も行かせるので、事前指導で何らかの工夫が必要かもしれない。また、保護者の方が否定的に捉える割合が高い。生徒は成果を発表する、あるいは他のグループの発表を聞くことで成果を感じることができると、そうではない保護者に対し、体験学習の成果を知らせていくことも必要であったと考える。
	保護者	83%	↓-2%		
② 継続的に週末課題と家庭学習時間調査を実施することにより、家庭学習の習慣化が図られている。	生徒	82%	↓-1%	肯定的意見の割合が生徒81.9%、保護者69.1%となっており、家庭学習の認識に開きが出ている。生徒からすれば、与えられた週末課題に取り組んで提出していることなのだろうが、保護者の中には、部活動等で帰宅時間が遅く、家庭での学習時間が十分に確保されていないと考えている方が相当数いる。	家庭学習の習慣化は、年次からの指導だけではなく、部活動の協力も必要である。「質の高い文武両道」を掲げる本校にとっては、家庭学習と部活動のバランスを図るのは大変難しい問題である。生徒個別の生活スタイルを把握し、それに合った学習スタイル・課題への取り組み方などを指導するなどの工夫が必要になってきている。
	保護者	69%	↓-6%		

実施度調査の分析と改善策【2年次】

実施度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」		前年度比	分析	改善策
	生徒	保護者			
① 一日総合大学をとおして、実際の大学等の講義を体験し、進路選択についての意識を高める指導が行われている。	生徒	88%	↑3%	生徒の88%が肯定的意見であった。「進路の参考になった」と感じている生徒も多いので、多くの生徒にとって進路選択を考える契機となる行事となったようだ。一方、保護者回答では生徒より1ポイント低かったが、それほど感覚に差は無いと思われる。	上級学校の雰囲気を知る貴重な経験となった。暑い時期ではあるが、部活動を中心に学校生活を組み立てている本校の状況としては、まとまった時間がとれるのはこの時期しかないように感じる。内容としては、生徒が興味・関心を持つ分野・内容の講義をいかに多く設定できるかによって、行事効果が大きく変化することが考えられるので、できるだけ生徒の希望に合った選択を準備できるとなお良くなると思う。
	保護者	87%	↑4%		
② 自学自習の習慣を定着させるため、週末課題と家庭学習時間調査の実施が継続的に行われている。	生徒	86%	↓-2%	肯定的意見が、生徒・保護者ともに高い。生徒の86%、保護者の82%が肯定的意見での回答をしているので、保護者は、家庭で生徒が学習をしている様子を見かけているものと思われる。ただ、学習内容に関する実施度は調査としての質問項目にないので、その学習が生徒本人の自力に結びついているかどうかまではわからない。	未提出の生徒はほとんどいないので、提出することに関する習慣化は定着してきたように感じる。進路を意識した取り組みをする生徒はまだ少ないので、来年度開始までに何らかの方策を講じたい。
	保護者	82%	↑7%		

実施度調査の分析と改善策【3年次】

実施度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」		前年度比	分析	改善策
	生徒	保護者			
① 放課後の課外や夏季休業中の学習会などを計画的に実施することにより、恒常的な学習習慣を確立させる指導が行われている。	生徒	88%	↑3%	肯定的意見が生徒で88%、保護者で91%であり、いずれも前年を上回って数値的には実施度は高いと言える。これは部活動を引退した後の学習状況を表しており、進路が決定するまでの数値である。このため、進路決定後は必ずしも継続しているとは言えないところもある。	部活動引退後の、気持ちの切り替えをいかにスムーズに行えるかが一つのポイントであろう。夏休み明けや秋口まで競技を続ける生徒へのフォローも必要である。ただ本校の場合、AO入試・推薦入試への出願割合が非常に高く、教員の熱意に頼った個別指導に依存する割合が高くなってしまっているのが現状である。
	保護者	91%	↑5%		
② 希望する進路に応じたガイダンスや学習会を実施し、より明確な目標と学習計画が立てられるような指導が行われている。	生徒	88%	↑4%	肯定的意見が生徒で88%、保護者で74%であり、前年と比較していずれも4ポイント上昇している。3年次では進路別のオリエンテーションなどを実施し、個々の進路に応じた指導を継続して行っているが、よりよい指導のあり方を模索していく必要がある。	生徒一人ひとりに対して、的確なデータの提供ときめ細かな指導をさらに徹底していく必要がある。また、三者面談は年1回であるが、複数回の面談を要望する保護者の方もおり、状況に応じて面談を複数回行うことも必要かもしれない（担任によっては、必要に応じて複数回実施している場合もあった）。
	保護者	74%	↑4%		